

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200329		
法人名	医療法人 社団 帰厚堂		
事業所名	グループホーム 敬寿荘(こすもすユニット)		
所在地	〒028-3614 岩手県紫波郡矢巾町大字又兵衛新田5地割67番1		
自己評価作成日	平成27年9月28日	評価結果市町村受理日	平成28年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0372200329-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム敬寿荘は矢幅駅東口で開設し10年ほど地域に根ざしご近所様との交流も深め過ぎてきましたが、ケアセンター開設と同時に5階の東側に引っ越してきました。18名の受入れ定員で「ひまわりユニット・こすもすユニット」2ユニットで運営しています。地域密着型サービスとして地域との関わりとしては東口での地域の方々とも継続的に広報誌等を届け情報交流に努めています。また、移転後、初めて夕涼み会を利用者・ご家族・地域の方々ともに開催する事が出来、西口の地域の方々にもご理解をいただき、交流を深めつつあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

矢巾駅西口に所在するケアセンターの5階にある敬寿荘は、「ひまわり」と「こすもす」の2ユニットのグループホームである。両ユニットとも、利用者・職員は明るい雰囲気の中で生活している。運営推進会議でも利用者の立場にあった考え方を中心にした話し合いをする中で、グループホームのあり方に提言しつつ、サービスの質の向上に資する協力をしている。また、地域とのつきあいでは、敬寿荘が、以前所在した、駅東口地区の矢巾一区自治会及び現在の新田二区自治会共々色々な面で、付き合いがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

こすもすユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自に理念を掲げ、職員それぞれが共有して、実践に繋げるよう努めている。また今年度も認知症実践研修を受講し理解を深めている。	"穏(オン)・心・人・笑・知・地域"と言う理念を2~3年前に職員の話し合いで生み出したものであり、法人の理念"愛と誠の精神"あるいはグループホーム敬寿荘の運営方針と関連付けたものでは無いが、職員間の共有を図りつつ、実践に努めている。	現在の理念は、グループホーム特有の独自性を求めながら、法人の系列として、特に「グループホーム敬寿荘」の運営方針との一貫性や関連性を話し合い、検討することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	誕生会や行事に矢巾一区の婦人会の方々がボランティアとして訪問して頂いたり、地区の文化祭に出かける等交流を深めている。また、今年度は夕涼み会を企画し家族、地域の方々に参加頂き3年ぶりに敬寿荘独自のイベントを開催できた。	駅東口の矢巾一区と駅西口の新田二区の地域との交流が非常に良くなされている。例えば、婦人会の演芸ボランティア、ホールでの交流運動会と昼食、地域、家族の方々を招いた屋上での夕涼み会、地域からは、矢巾町敬老会への招待を受け参加し、文化祭の出品等々多岐に渡る。法人の広報「南昌だより」の回覧も2つの地区にはお願いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町から委託された認症支援ネットワーク連絡会とキラバンメイト連絡会が結成となり毎月、連絡会に出席し活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月の開催し利用者家族の出席も交代で2名づつ出席をお願いしている。構成メンバーとしては2年目であり、状況もわかり意見等活発に交流している。	委員は矢巾一区、新田二区の民生委員、矢巾町社会福祉協議会関係者、包括、家族、法人、ホーム関係者などで構成し、奇数月第3火曜日の10時30分から1時間を定例として開催しており、情報提供に基づき、協議をしている。最近では、利用料に関わり、できるだけ家族負担を軽減してほしいとの意見が出て、その旨を行政に知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録・利用状況一覧で提出し報告し空き状況等連絡を取り合っている。	上記の様に、運営推進会議の記録は、その都度報告、その他、報告事項、事務手続き等の指導、助言を受ける等、町の担当とは連携を取り合っている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム敬寿荘(こすもすユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は特に施錠することなく見守っている。ホーム内勉強会で周知している。	学習会を中心に身体拘束をしないケアについて職員一人ひとりの意識を高めると共に共有化に努めている。今年は9月に、身体拘束に関することをテーマに、インターネットからの資料を用いて学習している。テーマは異なっても、関連する内容があれば確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、外部研修の受講すること。ホーム内の勉強会を開催している。また、全員が虐待について知識を高め疑問点など意見を出し合い見直している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内の勉強会で確認し合い理解を深めている。また、受講者から伝達講習も実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書・契約書を説明し同意を得ている。移転したことにより一部変更した箇所がありその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議の場で話されることは難しいと思われるので来荘時に声を掛けできるだけ寄り添うようにしている。	今年は、家族アンケートを実施した。また職員による申し送りノートの記録等からも、利用者や家族の意見を確かめ、可能な限り反映させている。特定の利用者の家族からは、知人が面会に訪れても、家族の了解を得てほしいとのことがあり、職員には周知させている。事情があり、特殊な例である。これは面会の制限になるが、家族からの要望、関係を重視し応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットにリーダーがいて意見や疑問点を出し言い合える状況にしてある。毎月の会議では話し合いの時間を設け改善すべき点等意見交換している。	職員の意見は、毎月のカンファレンス、ユニットリーダーへの申し出、連絡ノートへの書き込み等、いろいろな機会がある。特にユニットリーダーへの申し出は身近である。最近では、入浴剤の使い方について、職員からの考えが出され、最後の入浴者まで楽しめる様、回数を分けて使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は整備されている休憩時間に関しても声掛けし交代で休んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修についても交代で参加している。○JTによる自己点検シートを活用し点検している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアセンター合同での事業に参加し協力し合える関係づくりに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて頂くため傾聴を心がけ何気ない普段の会話から、徐々にその人の希望、好み等を確認し不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族の要望等を聞き取り、その後も面会の都度、できるだけ聞き取りの場、話しやすい雰囲気作り、信頼関係を築けるよう努めている。また人によっては面会制限あり、その都度家族に確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にアセスメントを実施し、身体状況や心理状況を理解したうえで、受診や傾聴等につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を常に意識しながら、会話に引き込み家族のような信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、また面会の回数が少ない家族には連絡をとるなどしてお互いの信頼関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人が訪ねてきたら、居室にてゆっくり会話ができるよう配慮したり、近隣に顔馴染みのいる方がいる入居者は時々訪問し、昔話を楽しんでいる。	重点を置き対応しているのは、馴染みの人や場に接することが出来るよう、利用者の旧居住地で行われる行事に、利用者が出掛けられるよう支援することである。例えば、矢巾一区の文化祭に出かけることや、逆にセンター独自の文化祭には知人が訪れている。また、出かける場合は、敬寿荘の2台の車を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	対話しやすい入居者同士席を並べたり、スタッフが仲介することで会話に繋げている。また常に居室で過ごす入居者に対しては無理強いすることなく、本人の希望に沿って対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、地元の椎茸生産者の方から安値で購入させていただいている。また、必要に応じ電話等、連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを知り、思いに応える努力をしている。馴染みの場所に連れて行くなど昔からの関係を継続させている。	「聞くことが大切」と考え、そのために職員は、利用者、家族、面会に訪れる方々とのコミュニケーションを図り、話していただくように促している。また、利用者の日常的な言動から察知することもある。知り得た情報はカンファレンスや連絡ノート等を通して共有し、支援にあたっている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム敬寿荘(こすもすユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や面会された友人より聞き取りしたり、日常の会話の中で徐々に把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で体調に合わせて手伝っていたり、好きな事をしていただいている。心身の変化は見逃さないよう声掛けや見守りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題があるときはその都度皆で話し合いをし情報交換、ケアの統一を心がけている。	入居時には、1ヶ月の情報収集期間を経て、本格的な計画作成に入るが、通常は、3ヶ月ごとにカンファレンスを行い、職員から担当する利用者の状況を聞き、家族等関係者の意見・要望も踏まえ検討の上、介護計画を作成し、実践している。3ヶ月ごとに見直しをしながら、支援にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別に記録している。変化がある場合カンファレンスや申し送り等で話し合い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じたニーズに対しては、可能な限り本人の意向に沿えるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、荘内行事に家族や地域の方々を招いたりして地域とのつながりを大事にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の希望するかかりつけ医を受診している。また受診の際は家族にも同行の協力をお願いしている。	利用者は、各々のかかりつけ医に受診している。当センターの1階にある「こずかた診療所」に通院している利用者が多い。当該診療所に通院の場合、ホームの職員が通院支援を行う。また、精神科や眼科等、専門病院へは、家族の協力を得ている。家族への連絡は、病状の変化や、薬の変更などがあった場合に連絡することになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問時に相談し指示を受けている。緊急の場合は電話連絡し、訪問看護だけではなくケアセンター看護師にも協力をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と常に連携を図り、早期に退院できるよう情報交換している。また訪問看護とも情報交換し、連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取り関係書類を作成し全員から確認を取っている。また特変時には近隣スタッフや訪問看護・ケアセンター看護師に協力を依頼している。	以前から、重度化や終末期に向けた指針は作成してあるが、実際にそこに向き合う必要が出た場合、医療行為が伴う場合、不安が残ると考えている。今年度は、容態悪化の場合に、どのような介護を希望するか、家族からの希望確認を取った段階で、それを整理・検討し、今後の対応に資して行くこととしている。現状では、ケアセンターの諸機能に協力を願っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護へ連絡、状況によっては3・4階の老健の看護師の協力を得ることもある。エマージェンシーコールで1階事務からの放送で医師を呼ぶ体制もできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	センターと合同の避難訓練を実施。ホーム独自に避難経路の確認やDVDで誘導の方法等を研修している。また緊急時の連絡網を作成している。	ケアセンター全体の災害対策の中に位置付けられており、敬寿荘の管理者は防災関係の副管理者として、グループホームの立場からの意見も述べている。年2回の避難訓練を実施している。1回は、夜間想定である。新築のビルであり、防災関係の機器に慣れ、非常持出し物等も確認しておきたい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前は「さん」付けで呼び、自尊心を傷つけない声かけをする。トイレの声かけはプライバシーに配慮する。	「利用者は、人生の先輩として尊敬すること。」を大切に考える中で、言葉遣いや、介護する側から、される側の立場に立って考えてみたり、相手の立場を考えることに徹底している。更に、人それぞれの違いがあることの理解が必要と、確認しながら支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選べるような声掛けや、思いを表出できるように信頼関係を築くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて本人の希望に沿うよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分にできる方には好きのようにコーディネートしている。重ね着する方には声掛けし見た目の工夫をするなど工夫している。散髪は定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来る範囲で買い物や調理・片付けを協力して行っている。 利用者様の状態にあわせてキザミ食やトロミをつけ提供している。 職員も同じテーブルに座り楽しく食事の時間をとっている。	ケアセンター内の介護老人保健施設博愛荘の管理栄養士の作ったメニューを参考に、全職員が分担し、各自が実際の献立を作っている。食事は、利用者、職員と一緒に和気あいあいと食している。利用者の中には、配膳や、後片付けなどを行っている方もいる。利用者の身体状況に合わせた食事作りに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に沿い、材料を揃え、調理している。個々の適量や習慣に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き介助や夜間は義歯を預かり義歯洗浄し、週3回義歯洗浄剤使用している。必要に応じて歯科受診もしている。また口腔ケアの研修に参加し、業務に活かしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム敬寿荘(こすもすユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄のタイミングで声掛けしトイレ誘導する。	排泄チェック表によって、各々の利用者の状況を見ながら、さりげなく誘導しており、日中は全員トイレを利用している。夜間は、ポータブルを使用する方が、各ユニット1名ずついる。昼食時に、ヨーグルト、バナナ、オリゴ糖を食べている。排便効果のため、効果はある様子である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際、野菜や水分を多く摂れるよう献立の工夫をしている。毎日、ヤクルトや牛乳を飲用している。午後の時間では体操に加えてボール投げなどのレクも取り入れ身体を動かすよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	受診などの予定がない日は毎日入浴を行い、清潔保持に努めている。また状態にあわせて足浴なども行う。衣類の着脱や洗体など自分でできることはしてもらう。	入浴は、毎日午前10時～11時頃まで行っている。入浴の頻度は、利用者の希望によって異なる。入浴を拒否する方もいるが、根気強くその気になるのを待つ、その気になるよう促したり、足湯を試みたりしている。また、気持ち良さを体感するため、炭酸湯も張っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力や希望に合わせ、居室で休んでもらったり、リビングで休んでもらったりしている。本人の居室には馴染みの寝具を使用し、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会等で薬に対する知識を深め、個々のデータを作成している。変更がある場合は申し送りノートや口頭で確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事、外出が好きな入居者等それぞれに張り合いを持ってもらえるよう、それぞれに合わせて対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム敬寿荘(こすもすユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブなど外出する機会を積極的にとっている。 天気の良い日は歩いて駅前まで散歩や屋上で日向ぼっこなども行っている。	天気の良い日は、ケアセンターの屋上、駅西口前を散歩する。季節によるが、駅西口のロータリーの花壇の除草を管理団体より頼まれ、実施している。また、食材の椎茸を受け取るため、生産農家の家へ、職員が2～3名の利用者をその都度交替で伴い、週1回年間を通して行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望がある時や必要に応じて預かり金から購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きたいという希望はないが、電話を希望する方には、代わりに番号を押し話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンからスタッフと利用者様の目が合うため安心感がある。 トイレも手すり等備え付けで使いやすい作りになっている。 窓からは新幹線や鳥が飛んでいるのが眺められ、季節感を感じられる。	共有空間は良く整理され、壁面等も、掲示物や置き物等あり、整理された様子で飾っている。文化祭に出品した張り子作品や貼り絵作品と、それを作成している時の写真等、思い出の掲示物が目線を考えた掲示がなされ、その中に大きな日めくり暦が目立っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仕切りはないが、食堂やリビングまたは居室で休んだりそれぞれ自分の好きな場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団を持ち込んで使ってもらっている。また、なじみの家具やぬいぐるみなどを置き、住み慣れた環境に近い空間を作るよう配慮する。	どの部屋も5階からの眺望を楽しむことができる。山脈の四季の移ろいが美しい。部屋には洗面所、小箆筒、棚、ベッドが用意され、布団類は持参である。亡き夫の位牌を持ってきている中で、夫の写真と、大ファンであるペ・ヨンジュンの写真をベッドの枕元と、壁面に掲示するなど、微笑ましい居室づくりを実見した。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム敬寿荘(こすもすユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下には手すりを設置している。夜間にはトイレが間に合わない方のためにPTトイレを使用している。		